

『4・17襲撃は当然だ』と人々が叫ぶ 島田(津田沼) 後修・30才

われわれは、島田をはじめとする「七名」の卑劣な裏切り行為を徹底的に断罪しなければならぬ。なぜなら、この間の反動革マル分子の数々の暴力・組合のファッショ的引きまわしを積極的に容認し、動労千葉破壊の手先としての役割りを果たしているからである。

この「七名」の中にあってもすでに職場の圧倒的追及の前にメロメロに論破され、「津山大会や4・17のような暴力はやっぱり良くない」「本部の体質は熊本大会でも変わっていきなかつた」などと、正しい「動揺」を開始している部分はある。き、きつすいの計画的潜入革マル分子島田、と家庭的な事情で金銭的にかたがたとられて身も心も売った品川電車区からの転入軟弱分子斉藤の二名は、現に次のように言いきっているのだ。

「4・17はバリケード撤去のためだから当然だ」  
何というデマと破廉恥さだ！

超右翼的体質をさらけ出す反動分子 「鉄労・マル生分子も顔まけ……」

職場からの圧倒的な怒りの追及にふるえ上っている島田らは、卑劣分子の本性もあらわに、必死で当局・権力の庇護を頼み込み、なきついている。

新小岩 林 樹 区

「ビラを貼らせないよう管理を強化してくれ……」区長に泣いてとりすがる反動分子

八月二五・二六・二七日と各々一五名(二五名の木皿・格和の「防衛隊」が出動してきたが、乗務員詰所の裏切り分子糾弾の組合掲示・ビラを必死になつてはがし、「日刊」と共に持ち去った。一と思いきや、なんと！ 彼らはそれをこのことと主席助役の所へ持参し、「あれは、動労『本部』の掲示板だ」「はがしてもはがしてもまた貼つてある。こういう個人攻撃のビラは貼らせないよう当局は組合掲示板をちゃんと管理せよ」「これをもっていつて、また貼った者がいたらその名前を教えてください」と申し入れ、さすがの当局もあきれかえっている。

動労本部 反動分子

国鉄本社に泣きつき、糾弾ビラの撤去を当局に要請！

八月二八日、千葉鉄当局を通し、国鉄本社職員局が、「動労本部から強力に申し入れがあったの

われわれは、あの「4・17」を決して忘れはしない。「4・17」こそ革マル反動集団の本質そのものであり、「4・17」を容認し、居直るような者が、どうして同じ陣営で共に闘う仲間などと考えられるだろうか。

更に、「七名」をテコとして「本部」反動集団は、千葉破壊のための暴力的出撃拠点をつくらうと必死であがいている。

五〇名の「防衛隊」に囲まれてはじめて出勤し、しゃべることでできる島田が、「そのうち『本部』の支部をつくつてやる」とおもわず口走っているように、彼らの狙いが千葉の各職場に、「本部」の右翼暴力集団の常駐派出所「本部」派支部をなんとしても暴力的にデッチ上げ、当局・権力からの庇護を頼みに、動労千葉の戦場的職場を右から切り崩そうという卑劣な画策をしていることは明らかである。われわれは、断じてこの策動を許さない。こっぴどみじんに粉砕するのみである。

で、千葉の職場での糾弾ビラを全て撤去してくれないか」と不当極まりない要請がしつこくなされた。もちろんこの様な組合活動への不当な介入は全くの筋ちがいであり考慮の余地なく全て拒絶。しかし、ここまでくれば、動労「本部」革マル反動分子の「当局親衛隊」ぶりも立派なものである。鉄労・マル生分子も顔まけではないか。

- もっとも、彼らのマル生分子的体質を示す言動の数々は、枚挙にいとまがない。
- 「局長も替ったことだし、お前(助役)も首だ！」(8/14 芳原某)
  - 「組合の力でお前(津田沼支部活動家)なんか首にしてやる」「三・八適用を申し入れてやる」(8/25 佐々木某)
  - 「警察に訴えてやる」(島田)。「権力とだつて時には手をくめるんだ」(8/14 芳原某)

このような一連の言葉は彼らの超右翼的体質をよく表わしている。こんな部分に、わが動労千葉の職場・営々と築き上げてきたこの闘いの拠点を踏みにじらせてなるものか！

8・30糾弾総決起集会を圧倒的にかちとり、更に全面的な、更に断乎たる追及・一掃闘争をおし進めよう！